

SHICHIJO J.H.S

未来のカタチ

ミライ/カタチ

令和3年11月号

京都市立七条中学校

道徳通信

学校教育目標

『自主・自律・共創』

～社会や人とのつながりの中で、自らを律し主体的に学び、共に未来を創造する生徒の育成～

気づけば、令和3年の終わりが見えてきました。みなさんは定期テストも終わり、少しホッとして過ごしているでしょうか。明日からは12月。師走（しわす）というだけあって、年末を迎えるまでは、学校でもなんとなくバタバタと過ごします。2週間後には三者懇談会も予定されており（保護者の方に学校に来ていただき懇談をするのは、今年度はこれが最後です）今の学年で過ごす時間が少なくなってきたことを少し実感できるかもしれません。いつもすぐそばにあるクラスメートの姿は、当たり前のようにいて、実は当たり前ものではありません。



偶然が重なって同じクラスになった仲間たちと共に過ごす時間を大切にしてください。

3年生のみなさんは、進路決定に向けて重要な時期に突入しています。「こんな人になりたい」「こんな将来にしたい」という少し先のビジョンをもって、卒業まで過ごしてほしいと思います。この通信のタイトルのように、それぞれが望む『未来のカタチ』を心に描きながら…。教職員、在校生みんなまで応援しています。

＊－＊－＊－＊－**授業の様子を紹介します**－＊－＊－＊－＊

1年生

“傍観者でいいのか” ～いじめのない世界へ～

教室の場面絵から、いじめに当たる行為を探し出し、なぜそう考えたのか話し合いました。いじめの人、いじめられる人、観衆、傍観者など、様々な人たちが関わっていることに気づきました。観衆や傍観者に焦点を当て、いじめの状況を作らないためにどうすればよいかを考えました。また、いじめを正当化する気持ちと後悔の気持ちの間で「私」が思い悩む場面を描いた漫画「ふたつの心」を読み、様々な立場の人の気持ちを考えました。人は、それぞれに見方や考え方があり、個性があります。よりよい人間関係を築くためには、考えや意見を相手と伝え合い、お互いに理解を深めること、相手の立場や個性を認め、尊重し合うことが大切です。

《ワークシートより（授業の感想）》

- ・人の嫌がることをしないと、自分の行動に責任を持つことが大切だと思った。外見には出せない人とか、いろんな人がいるから、相手の気持ちを考えたり、差別をなくす、困っている人がいたら相談にのってあげたい、できることがあれば手伝うのも大事だと思った。
- ・もし、いじめが起きたときに、見て見ぬふりをせずに、いじめている人に直接注意ができる人になりたい。いじめられている人がいたら、相談にのったりして、力になってあげられるようにしたい。
- ・私は今回の授業で、自分のことは自分しか分からないし、他人の気持ち（本音）はどうしても分からないということを改めて知った。でも、それは前提の上で、相手の気持ちになろうとする人や向き合うことができる人が本当に強いんだと思った。どんな方法でも支えることはできるから、自分も強くなりたい。
- ・いじめが起こるのは加害者の心理だけでなく、周りの環境もあって起こる。傍観者などがいることで、注意しようとしている人が注意しにくくなり、いじめを受ける人達が増えるので、そういうのをなくして、いじめもなくなしていきたい。

2年生

“本当の私”

実際にあった事件に着想を得て創作された教材を用いて、人間の心の中にある弱さ・醜さを認め、それを乗り越えようとする強さを身につけることについて考えました。

陸上選手のエイミーは、コーチから勧められて使用していたサプリメントがドーピング検査に引っかかる疑いがあることを知ります。もう絶対に薬物には手を出さないと決めたエイミー。どうしてもいい結果を出したい世界選手権まで1か月を切ったある日、ドーピング検査をうまくいかぐれるという薬がある、そんな噂を耳にします。葛藤の中、ついに再び、薬物に手を出してしまいます。その後、大活躍し、金メダルも獲得したエイミーでしたが、自らドーピングを公表し、獲得した優勝賞金やメダルを返還しました。友人には「金メダルを失った代わりに、大切なものを取り戻したのね」と言われます。エイミーは何を取り戻したのでしょうか。

人間はだれしも弱くて醜いところがあるのだと思います。しかし、それを認め、受け入れ、なんとかしようと思戦苦闘することで成長するのかもしれない。



《ワークシートより（授業の感想）》

- ・自分の素直な気持ちと向き合あうことで、自分を受け入れることで、気持ちがすっきりするのだと学んだ。
- ・自分の弱いところから逃げがちなのは、自分の直らない悪ところだと思っている。何回も悩んだり相談したりするたびに、次は頑張ろうと思うけど、いざ何かをやろう、挑戦しようとするをやっぱり逃げてしまう自分がすごく嫌だった。今でもまだそんな自分から成長できてないけど、自分の気持ちを周りに伝えてみることで、少しずつ立ち向かえるような気がした。
- ・自分の弱さは、周りの目を気にしてしまうということ。一切周りの目を気にしないというのは違うと思うけど、少しずつ周りの目が気にならないぐらいに、自分に自信をもって生きていきたい。

3年生

“背筋を伸ばして”

クリーニング店を営む両親の愛情や仕事に対する姿勢を尊敬しながらも、主人公は家業を継がずに、デザイナーになるために専門学校に進学する夢を持っています。しかし、父母の期待を知りつつ、自分の夢を相談できずに高校3年生を迎えた主人公は、彼女の希望を知って落胆する父に対して冷たい言葉を浴びせます。旅立ちの前夜、手作りのジャケットにアイロンをかける父。「背筋をのばしていきなさい。」と手渡されたジャケットの暖かさ。父親からのメッセージを受け取った主人公の気持ちは……。家族からの愛情について、あらためて思いをはせるとともに、自分の進路選択について考える機会になったでしょうか。主人公に共感したり、今の自分の状況について、改めて考えた仲間が多くいたようです。



《ワークシートより（授業の感想）》

- ・僕はこの教材を通して、今まで親の気持ちを考えずにひどいことを言っていたかもしれないから、これからは親の気持ちを考えて、感謝していきたいと思いました。
- ・家族がいるからこそ、今の自分がいるのだと思えました。
- ・いつも家族に応援してもらっているので、その期待に答えられるように頑張りたい。
- ・目に見えないところで家族に支えられているなあと思った。また、自分も家族の誰かの支えになっているんだと思う。
- ・授業を通して、けんかもあるけど支えてくれている家族の存在のありがたさを改めて実感しました。あたりまえのように家事をしてくれて支えてくれるかぞくに「ありがとう」を伝えたいです。